

---

事業報告書

2019

学校法人 工学院大学

---



## CONTENTS

<b>事業の概要</b>	<b>3</b>
I. 大学・大学院	3
II. 附属中学校・高等学校	5
III. 学園全体	6
<b>財務の概要</b>	<b>8</b>
<b>法人の概要</b>	<b>10</b>
<b>DATE FILE</b>	<b>14</b>

# I 大学・大学院

## 1 21世紀型の工学教育の実践とその改革

- 1.1 21世紀型の工学教育プログラムの推進
- 1.2 国際・教養・キャリア教育（科目）の整備、強化
- 1.3 大学院の拡充
- 1.4 学生支援プログラムの一層の充実

今年度は、先進工学部の機械理工学科に「航空理工学専攻」、応用物理学科に「宇宙理工学専攻」の2専攻が新たに開設され、それぞれの教育に取り組みはじめました。また、先進工学部では、大学院接続型のコースの準備を行い、2020年4月にスタートします。

大学・大学院においては、各科目のルーブリックを完成し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、各科目の到達目標における基準を明確にすることができました。

また、大学院博士後期課程在学生の論文投稿に際して、投稿料及び公表料の一部を補助する論文投稿支援補助規程を整備しました。その他、本学での教育職を設け、博士後期課程終了後のキャリアプランを明示し、将来の見通しを持って進学することを促す施策の一つとして、助手制度を導入しました。

2019年11月には、教育課程と学生支援部門との連携を図り、学生が自らのキャリアデザインを構築するために必要な能力を培うことができるよう支援を行うことを目的に、「キャリアデザインセンター」を設立しました。

本学独自の留学プログラム「ハイブリッド留学<sup>®</sup>」は、例年通りイギリス、アメリカで実施し、文部科学省のAP補助金の最終年度を迎えました。

「選ばれる大学」としてのブランド力強化のための施策として、学生プロジェクトの活性化をはかる重点支援を行い、「工学院大学ソーラーチーム」は、10月にオーストラリアで行われた「Bridgestone World Solar Challenge」（ワールドソーラーチャレンジ）のチャレンジャークラスで完走し、5位入賞及びオーストラリア連邦科学産業研究機構公認の技術賞を受賞しました。「みつばちプロジェクト」は、入浴料・はちみつの瓶詰に続き、製品化第2弾として「はちみつ入りハンドクリーム」を企画・制作しました。

## 2 研究活動の戦略的な発展

- 2.1 イノベーションの創発を推進する取組
- 2.2 研究分野におけるパートナーシップの拡大
- 2.3 研究力の発信と社会連携の増進
- 2.4 研究及び実験環境の充実

2019年4月、工学に関する幅広い領域を専門分野に持つ本学の利点を生かして、「ジェロンテクノロジー」に関する研究開発を推進し、超高齢社会が直面する課題の解決を図り、学部・学科横断型教育を通して異分野の専門家と連携して多様な課題に挑戦できる能力を持つ人材を育成することを目指して「共生工学研究センター」を開設しました。

また、八王子市内最初の大学として、本学との包括連携協定を2015年に締結した八王子市は、新たな分野への展開を目指す企業や、社会課題をものづくりにより解決しようとする企業を支援するために条例を改正しました。この新条例に基づく支援事業の一環として、本学八王子キャンパスに位置する産学共同研究センターの一部を本学と建物使用貸借契約を締結し、研究開発のための入居施設「八王子市新産業創出センター」として提供をはじめ、八王子商工会議所を含めて連携をより強化しました。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下JST）主催の「イノベーション・ジャパン～大学見本市&ビジネスマッチング～」では、全国の国公私立大学の中でトップとなる27テーマが採択されました。その他、JST主催の「日中大学フェア&フォーラム in CHINA」及び「新技術説明会」や、公益財団法人神奈川産業振興センター、神奈川県、川崎市主催の「テクノトランスファー in かわさき」などで展示・研究成果を発信し、併せて、共同研究、受託研究及び技術指導などを積極的に行いました。

## 3 キャンパス、教育・研究環境の整備

- 3.1 新宿・八王子の地の利、戦略性を生かした教育・研究環境の整備
- 3.2 ダイバーシティに対応した学び、働きやすい環境
- 3.3 ICTの活用などによる情報環境のグレードアップ
- 3.4 施設・設備の安全管理の徹底

新宿キャンパスアトリウムのリニューアル工事に着手、2020年夏には竣工予定です。巨大スクリーンの中央には日本初の常設となるキネティック・ウォールが設けられ、デジタルアートなどの表現が可能となります。

新しいアトリウムの機能を用いたデジタルアートコンペティションを実施、大学・大学院の学生、附属中学校・高等学校生徒から応募を募り、31件の作品提出がありました。

第1段階を通過した5作品は2020年秋に予定されている第2段階公開審査にむけて作品を仕上げていくこととなります。

また、八王子キャンパスでは犬目校舎の解体工事を進めてまいりました。

ダイバーシティへの対応として、配慮学生への対応方針を示した、「工学院大学における障害者の支援等に関する規程」を制定施行しました。また、外国人留学生を対象とした国際交流会や就職支援プログラムを実施しました。

情報環境向上の取り組みとして、2020年4月の事務基幹システム、学生用ポータルサイト更新による利便性・教育の質の向上を目指し、準備を進めました。

## Ⅱ 附属中学校・高等学校

### 1 変容するグローバル社会で活躍できる人材の育成

- 1.1 21世紀型教育の進化と深化
- 1.2 「工学院」ならではの理数教育の充実
- 1.3 進学指導の充実・強化

2013年度より「20世紀型教育」から脱却するための改革に着手し、「21世紀型教育」を実践してきました。グローバル社会では一握りのFirst Classの人材育成より、自己変容型知性を獲得した人材すなわちCreative Classの若者を養成することの必要性が重要であることに鑑みて、「21世紀型教育」(=グローバル教育3.0)を推進しました。中学校にハイブリッドクラスが誕生して5年(2015～)、高等学校にハイブリッドコースが誕生して2年(2018～)が経ち、次の①～⑥の①CEFR：C1英語 ②Learning：PBL×STEAM ③Global Network：Global Immersion ④Web：Web3.0 ⑤思考力：批判・創造 ⑥大学入試：グローバル高大接続試験 を定性的・定量的に分析して、どこまで達成できているかを分析すれば、グローバル教育3.0の完成度を見極めることができます。

シンガポールで行われたAsian Student Leadership Conferenceでは、中学2年生・高校1年生の生徒が参加し大活躍をしました。その為には①②③④⑤が3.0を要求されました。また、Round Square International Conference 2019に参加した高校1・2年生の生徒も①②③④⑤は3.0が必須でありました。更に高校2年生を対象としたGlobal Projectがスタートし、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて始動しました。此处でも①②③④⑤が3.0の高いスコアが必要となりました。ハイブリッド国際コースの生徒が挑んだカンボジアでのMoG(=Mission on the Ground)では「世界を見に行くんじゃない、世界を変えに行くのだ」とカンボジアの社会起業家の女性たちと真剣に向き合いました。もちろん現地の人たちに深く切込むことができたのも、①②③④⑤のレベルが高かったことが功を奏した形となりました。

また、⑥グローバル高大接続試験においては、日本と海外双方の大学にチャレンジして結果を残す生徒も現れました。先ず国内では大学入試センター試験が最後の年になり、2021年から大学入学共通テストになることから慎重な大学選択が目立ちAO・推薦試験等々に流れた生徒も多く、一般入試の受験回数が減少するなど受験指導に問題が残りました。一方で東北大学理学部生物学科や横浜市立大学・東邦大学・昭和大学等々の医学部医学科の合格者は特筆に値します。また、プレとは言え国際コース1期生を中心にして世界ランキング(Times)100位内の大学\*の合格者も続出しました。

更に高等学校のハイブリッドサイエンスコースは、6月と11月に工学院大学八王子キャンパスで実験講座を実施するなど、大学の教員から直接指導や大学院生のサポートを受け生徒たちに好評でした。他にも4大学の教員による講座や実験にも参加し、理系進学を目指す生徒たちのモチベーションが向上しました。

\* 海外大学の合格実績 ( )内は世界ランキング(Times)の順位

【US】(ア) Baylor University (601～800) (イ) Michigan State University (84) (ウ) Oregon State university (351～400)  
(エ) Rutgers University (130) (オ) Syracuse University (251～300) (カ) University of Massachusetts (201～250)  
(キ) The University of Alabama (172) (ク) University of California Davis (55) (ケ) University of California Santa Cruz (179)  
【UK】(コ) University of East Anglia (192) (サ) University of Exeter (146)

### 2 キャンパス、教育環境の整備

- 2.1 大学キャンパスを活用した中高教育の実施
- 2.2 ICT環境の充実

前述の実験講座以外においても、高等学校のハイブリッド国際コースでは、週1日大学の新宿キャンパスで授業を実施しました。附属校のメリットを活かし、ICTモラル教育や、外部講師を招いた講演会などで大学の施設を活用しました。ICT環境についても充実をはかり、大学キャンパス内で中高生が使用する端末のWi-Fi接続が可能となりました。

# Ⅲ 学園全体

## 1 経済社会のグローバル化への対応

## 2 パートナーシップ（社会連携）の拡充

## 3 社会貢献

グローバル化促進のため、海外協定校を中心に学生を受入れて、研究交流等を実施しました。JSTの日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）を活用して、計7つの国・地域から学生・教員を招聘し、全学部に渡る多数の学術交流を推進しました。この他、協定校からの来日留学生をサポートするプログラム（CAP）に多くの学生が参加し、異文化理解を深め、学生の国際化の動機付けとなりました。また、今年度は台湾の南台科技大学にて実施された国際先端技術シンポジウム（ISAT：International Symposium on Advanced Technology）に、42名の発表学生と8名の附属高等学校生徒が参加して、国際学会の体験をとおして、学園全体のグローバル化の促進につながりました。

また、附属高等学校の2年生は12月にグローバル・プロジェクトを実施しました。これは、国連が定めたSDGsの17目標の中からそれぞれの国や地域が直面する課題を学び、その解決に貢献するための取り組みを目指すプロジェクトで、アメリカ・カンボジア・タイ・沖縄の4か所で行いました。

2019年8月、日本化学会などが主催する全国規模の化学グランプリの二次選考会が、八王子キャンパスで実施された際には、本学の教員が運営を務め、学生たちも補助業務に携わって、全国の優秀高校生と交流しました。

12月には高大連携事業の一環として、東京都内SSH（スーパーサイエンスハイスクール 以下SSH）指定校合同発表会を新宿キャンパスで開催しました。3月には、関東近県SSH指定校合同発表会を新宿キャンパスでの開催予定で準備を進めましたが、新型コロナウイルス禍のため中止となりました。しかし、発表会概要集を作成して関係高校へ配布した他、本学図書館におけるアーカイブ化に着手しました。

そして、理科・科学教育面における社会貢献活動として、今年度で26回目となる「科学教室」を実施しました。科学教室は、包括連携協定を締結している八王子市との共催、大学周辺の自治体や多くの地域住民の方々、企業や多数の教育委員会との連携で実施しています。

## 4 優れたガバナンスと教職員一体による 簡素で合理的・効率的な組織・事務運営

## 5 将来への投資

## 6 積極的な発信

2020年4月に施行される改正私立学校法への対応に向けて、寄附行為変更に向けての手続きを行いました。また、役員報酬規程、閲覧規程、監事監査規程等の諸規程を改正しました。学校運営の透明性が確保され、公正な意思決定の仕組みが確立しました。

そして、中期計画「コンパス2023」において課題としている「事務の簡素・合理・標準化」を推進すべく、2020年4月に向けて事務基幹システムの入替準備を進め、併せて事務組織を一部見直し、学習支援部、学生支援部、学務部の3部署を学事部、就職支援部の2部署に改編することなどを決定しました。

将来への投資として、新宿キャンパスの計画修繕・改良工事を実施し、アトリウムを中心に就職支援センター等がリニューアルされました。附属中学校・高等学校では野球室内練習場の建設を行いました。

学園の情報資産としてのデータ有効活用の推進として、卒業生を中心に前年度配布した「生涯メールアドレス」の登録推進、情報発信を行い、卒業生の方との結びつきをより強固にすべく、学園広報サイト「窓」の情報発信などを通じてコミュニケーションを図りました。

また、学生の課外活動における情報発信を積極的に行い、「工学院大学ソーラーチーム」は、10月にオーストラリアで行われた「Bridgestone World Solar Challenge」（ワールドソーラーチャレンジ）で、約3,000kmを完走し5位に入賞する等、学生活動が活発に行われました。プレス向け発表会・報告会など実施し、新聞各紙への掲載、テレビ番組でも特集されるなど注目を集めることとなりました。

## 決算概要

2019年度決算概要について報告します。

### 1. 事業活動収入について

- (1) 学生生徒等納付金については入学定員厳格化のなか減少傾向
- (2) 受験者増により、手数料のうち、入学検定料収入が伸長

### 2. 事業活動支出について

- (1) 投資計画に基づく教育・研究環境整備への重点的な投資として以下展開
  - ・ (大学) 新宿キャンパスにおいて、計画修繕・改良工事の一部実施
  - ・ (大学) 基幹システムの改修工事
  - ・ (中高) 野球室内練習場建設
- (2) 上記工事費に伴う、修繕費・解体費が一時的に増加

### 3. 収支状況について

- (1) 新宿キャンパスの改修・改良工事、基幹システムの改修費の一時的増加により費用増
- (2) 上記新宿キャンパスの大規模改良を全額自己資金にて対応すべく第2号基本金を積立中

## 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	9,489
		手数料	515
		寄付金	83
		経常費等補助金	1,424
		付随事業収入	488
		雑収入	275
		<b>教育活動収入 計</b>	<b>12,274</b>
	事業活動支出の部	人件費	5,638
		教育研究経費	5,712
		管理経費	1,198
		徴収不能額等	3
		<b>教育活動支出 計</b>	<b>12,551</b>
		<b>教育活動収支差額</b>	<b>△ 277</b>
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	30
		その他の教育活動外収入	120
		<b>教育活動外収入 計</b>	<b>150</b>
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		<b>教育活動外支出 計</b>	<b>0</b>
		<b>教育活動外収支差額</b>	<b>150</b>
		<b>経常収支差額</b>	<b>△ 127</b>
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	60
		<b>特別収入 計</b>	<b>60</b>
	事業活動支出の部	資産処分差額	41
		その他の特別支出	0
		<b>特別支出 計</b>	<b>41</b>
		<b>特別収支差額</b>	<b>19</b>
		[予備費]	-
		<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>△ 108</b>
		<b>基本金組入額合計</b>	<b>△ 2,034</b>
		<b>当年度収支差額</b>	<b>△ 2,142</b>
		<b>前年度繰越収支差額</b>	<b>1,452</b>
		<b>基本金取崩額</b>	<b>143</b>
		<b>翌年度繰越収支差額</b>	<b>△ 547</b>
		(参考)	
		<b>事業活動収入 計</b>	<b>12,483</b>
		<b>事業活動支出 計</b>	<b>12,591</b>

※百万円未満四捨五入

学生生徒等納付金	授業料、入学金、教育充実費、実験実習料等
手数料	入学検定料、証明手数料等
寄付金	学園振興資金寄付金、指定寄付金、奨学寄付金等
経常費等補助金	国庫補助金、地方公共団体補助金等
付随事業収入	受託事業収入、収益事業からの繰入収入等

人件費	教員人件費、職員人件費等
教育研究経費	教育研究活動に直接支出される経費、勉学環境の維持費用等
管理経費	学生募集経費、その他管理部門の経費



## 資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
学生生徒等納付金収入	9,489	人件費支出	5,623		
手数料収入	515	教育研究経費支出	3,593		
寄付金収入	83	管理経費支出	1,096		
補助金収入	1,458	借入金等返済支出	0		
資産売却収入	0	施設関係支出	1,509		
付随事業・収益事業収入	608	設備関係支出	494		
受取利息・配当金収入	30	資産運用支出	2,225		
雑収入	274	その他の支出	902		
借入金等収入	0	[予備費]	-		
前受金収入	1,747	資金支出調整勘定	△ 534		
その他の収入	631	翌年度繰越支払資金	4,053		
資金収入調整勘定	△ 3,414				
前年度繰越支払資金	7,540				
<b>収入の部 合計</b>	<b>18,961</b>	<b>支出の部 合計</b>	<b>18,961</b>		

※百万円未満四捨五入

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	年度末	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額
資産の部	固定資産	67,367	67,529	67,962	70,618	71,297	73,116
	流動資産	8,033	9,259	9,967	8,883	8,136	4,308
	<b>資産の部合計</b>	<b>75,400</b>	<b>76,788</b>	<b>77,929</b>	<b>79,501</b>	<b>79,433</b>	<b>77,424</b>
負債の部	固定負債	3,984	3,720	3,648	4,196	3,950	3,705
	流動負債	3,308	3,979	4,053	4,243	4,350	2,694
	<b>負債の部合計</b>	<b>7,292</b>	<b>7,699</b>	<b>7,701</b>	<b>8,439</b>	<b>8,300</b>	<b>6,399</b>
純資産の部	第1号基本金	59,910	62,199	66,470	65,564	66,384	67,874
	第2号基本金	6,726	4,087	6	1,706	2,006	2,406
	第3号基本金	581	581	581	581	581	581
	第4号基本金	711	711	711	711	711	711
	翌年度繰越収支差額	180	1,512	2,460	2,500	1,451	△ 547
	<b>純資産の部合計</b>	<b>68,108</b>	<b>69,090</b>	<b>70,228</b>	<b>71,062</b>	<b>71,133</b>	<b>71,025</b>
<b>負債の部及び純資産の部合計</b>	<b>75,400</b>	<b>76,788</b>	<b>77,929</b>	<b>79,501</b>	<b>79,433</b>	<b>77,424</b>	

※百万円未満四捨五入

## 学校法人会計の計算書類について

### 事業活動収支計算書

当年度の事業活動収入と事業活動支出の内容及び収支の均衡を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であることを示すものです。企業会計の損益計算書に相当します。

### 資金収支計算書

当年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を明らかにし、支払資金の収支の顛末を明らかにするものです。消費収支計算書にない施設設備投資額が含まれます。企業会計のキャッシュ・フロー計算書に相当します。

### 貸借対照表

一定時点(決算日)における資産及び負債、基本金、事業活動収支差額の内容・有り高を明示し、学校法人の財務状況を明らかにするものです。

## 建学の精神

### 「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神とグローバル展開」

工学院大学は、工業化が急ピッチで進む1887(明治20)年の開学以来、「製造業などの発展に伴う社会・産業界のニーズ」と「最先端の工学研究という学問の発展」をつなぐ専門性の高い技術者育成の場として、10万人を超えるものづくりの担い手を世の中に送り出してきました。

グローバル化がますます進展する21世紀社会においても、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」を深化・発展させ、事業・実務でリードし、科学技術立国・日本における21世紀型ものづくりを支える理工系人材の育成及び先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者を育成する拠点として成長し続けます。

## 学園の沿革

1887(明治20)年 10月31日	帝国大学総長渡辺洪基を中心として工手学校設立協議会を開き、設立趣意書を発表
1888(明治21)年	工手学校開校式を挙行、築地にて授業を開始
1928(昭和 3)年	東京市淀橋町大字角筈(現新宿敷地)に新校舎が竣工 工学院と名称変更
1944(昭和19)年	工学院工業学校を設置、工学院工業専門学校を設置
1945(昭和20)年	工学院工業学校を工学院第一工業学校と名称変更
1946(昭和21)年	工学院第二工業学校を設置
1947(昭和22)年	工学院第一中学校、第二中学校を設置
1948(昭和23)年	学制改革により、新制高等学校として工学院高等学校を設置(第一、第二工業学校は廃止) 工学院第一中学校を工学院中学校に名称変更(第二は募集停止)
1949(昭和24)年	工学院大学を設置(工学部 第一部(昼)・第二部(夜)) 工学院大学開設に伴い「工学院大学中学校」、「工学院大学高等学校」と名称変更 工学院を工学院専修学校と名称変更
1950(昭和25)年	工学院工業専門学校を廃止、工学院大学短期大学部を設置
1951(昭和26)年	工学院専修学校を工学院大学専修学校と名称変更
1956(昭和31)年	工学院大学短期大学部を廃止
1958(昭和33)年	工学院大学中学校を廃止 工学院大学に工学専攻科を設置
1963(昭和38)年	八王子市中野町に八王子キャンパスを開設
1964(昭和39)年	工学院大学に大学院工学研究科修士課程を設置
1966(昭和41)年	工学院大学に大学院工学研究科博士課程を設置
1977(昭和52)年	工学院大学専修学校を工学院大学専門学校と名称変更
1986(昭和61)年	工学院大学第二部を募集停止
1989(平成 元)年	新宿キャンパスに高層棟が竣工
1991(平成 3)年	工学院大学第二部の学生募集再開
1992(平成 4)年	工学院大学高等学校を「工学院大学附属高等学校」と名称変更 新宿キャンパスに中層棟・オフィス棟が竣工
1995(平成 7)年	新宿キャンパスに工学院大学エステック広場が落成
1996(平成 8)年	工学院大学附属中学校を再開
2001(平成13)年	八王子市中野町に中学校新校舎が竣工
2002(平成14)年	附属中学校・高等学校を男女共学化
2006(平成18)年	学部改組により情報学部及びグローバルエンジニアリング学部を設置 八王子市中野町に高等学校新校舎が竣工
2009(平成21)年	工学院大学専門学校を廃止
2011(平成23)年	学部改組により建築学部を設置
2015(平成27)年	学部改組により先進工学部を設置、グローバルエンジニアリング学部及び工学部第二部の募集停止

### 創 立 者

### 渡 辺 洪 基



### プロフィール

1847(弘化4)年福井県生まれ。24歳で岩倉具視遣外使節団に随員として加わって以来、外交官、東京府知事、衆議院議員等を歴任。1886(明治19)年に39歳で初代帝国大学(現在の東京大学)総長となり、産業発展のためには実践的技術者育成が急務と痛感し、翌1887(明治20)年、東京築地に工学院大学の前身である工手学校を設立。明治以降の我が国の工業化の礎を築いた。

## 設置する学校の内容

(2019年5月1日現在 単位:人)

学校名	学部・学科名等	入学定員	入学者数	編入学者数	収容定員	在学者数	
大学院	工学研究科博士後期課程						
	機械工学専攻	3	1	-	9	3	
	化学応用学専攻	3	4	-	9	12	
	電気・電子工学専攻	3	1	-	9	5	
	情報学専攻	3	1	-	9	2	
	建築学専攻	3	1	-	9	10	
	大学院						
	工学研究科修士課程						
	機械工学専攻	70	63	-	130	138	
	化学応用学専攻	50	45	-	100	103	
	電気・電子工学専攻	60	54	-	100	101	
	情報学専攻	30	25	-	60	43	
	建築学専攻	60	55	-	120	111	
	システムデザイン専攻	10	8	-	30	13	
<b>大学院合計</b>		<b>295</b>	<b>258</b>	<b>-</b>	<b>585</b>	<b>541</b>	
先進工学部	生命化学科	70	73	-	280	283	
	応用化学科	95	89	-	380	364	
	環境化学科	70	71	-	280	286	
	応用物理学科	65	68	-	260	252	
	機械理工学科	65	65	-	260	267	
	<b>合計</b>	<b>365</b>	<b>366</b>	<b>0</b>	<b>1,460</b>	<b>1,452</b>	
工学院大学	工学部						
	機械工学科	154	166	0	602	614	
	機械システム工学科	105	104	1	410	428	
	応用化学科*1	-	-	-	-	7	
	環境エネルギー化学科*1	-	-	-	-	6	
	電気電子工学科*3 (旧:電気システム工学科)	120	123	2	470	470	
	情報通信工学科*2	-	-	-	-	25	
	<b>合計</b>	<b>379</b>	<b>393</b>	<b>3</b>	<b>1,482</b>	<b>1,550</b>	
	工学部第2部*1						
	情報通信メディア工学科*1	-	-	-	-	0	
	建築学科*1	-	-	-	-	1	
<b>合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>		
建築学部							
まちづくり学科	85	62	1	335	372		
建築学科	145	151	0	560	561		
建築デザイン学科	115	115	0	450	493		
<b>合計</b>	<b>345</b>	<b>328</b>	<b>1</b>	<b>1,345</b>	<b>1,426</b>		
情報学部							
情報通信工学科	90	95	-	360	329		
コンピュータ科学科	90	85	-	360	375		
情報デザイン学科	70	71	1	280	310		
システム数理学科	60	61	1	240	233		
<b>合計</b>	<b>310</b>	<b>312</b>	<b>2</b>	<b>1,240</b>	<b>1,247</b>		
グローバルエンジニアリング学部*1							
機械創造工学科*1	-	-	-	-	1		
<b>合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>		
<b>学部合計</b>		<b>1,399</b>	<b>1,399</b>	<b>6</b>	<b>5,527</b>	<b>5,677</b>	
<b>大学合計</b>		<b>1,694</b>	<b>1,657</b>	<b>6</b>	<b>6,112</b>	<b>6,218</b>	
工学院大学附属高等学校	全日制課程	普通科	290	257	3	870	746
工学院大学附属中学校			105	75	2	315	264
<b>総合計</b>		<b>2,089</b>	<b>1,989</b>	<b>11</b>	<b>7,297</b>	<b>7,228</b>	

※1 2015年度募集停止

※2 2016年度募集停止

※3 2017年度名称変更

## 教職員数推移

(2019年5月1日現在 単位:人)

	2015年5月	2016年5月	2017年5月	2018年5月	2019年5月
大学教員	224	230	231	223	225
中高教員	61	64	65	63	61
職員	150	142	138	131	130
<b>合計</b>	<b>435</b>	<b>436</b>	<b>434</b>	<b>417</b>	<b>416</b>

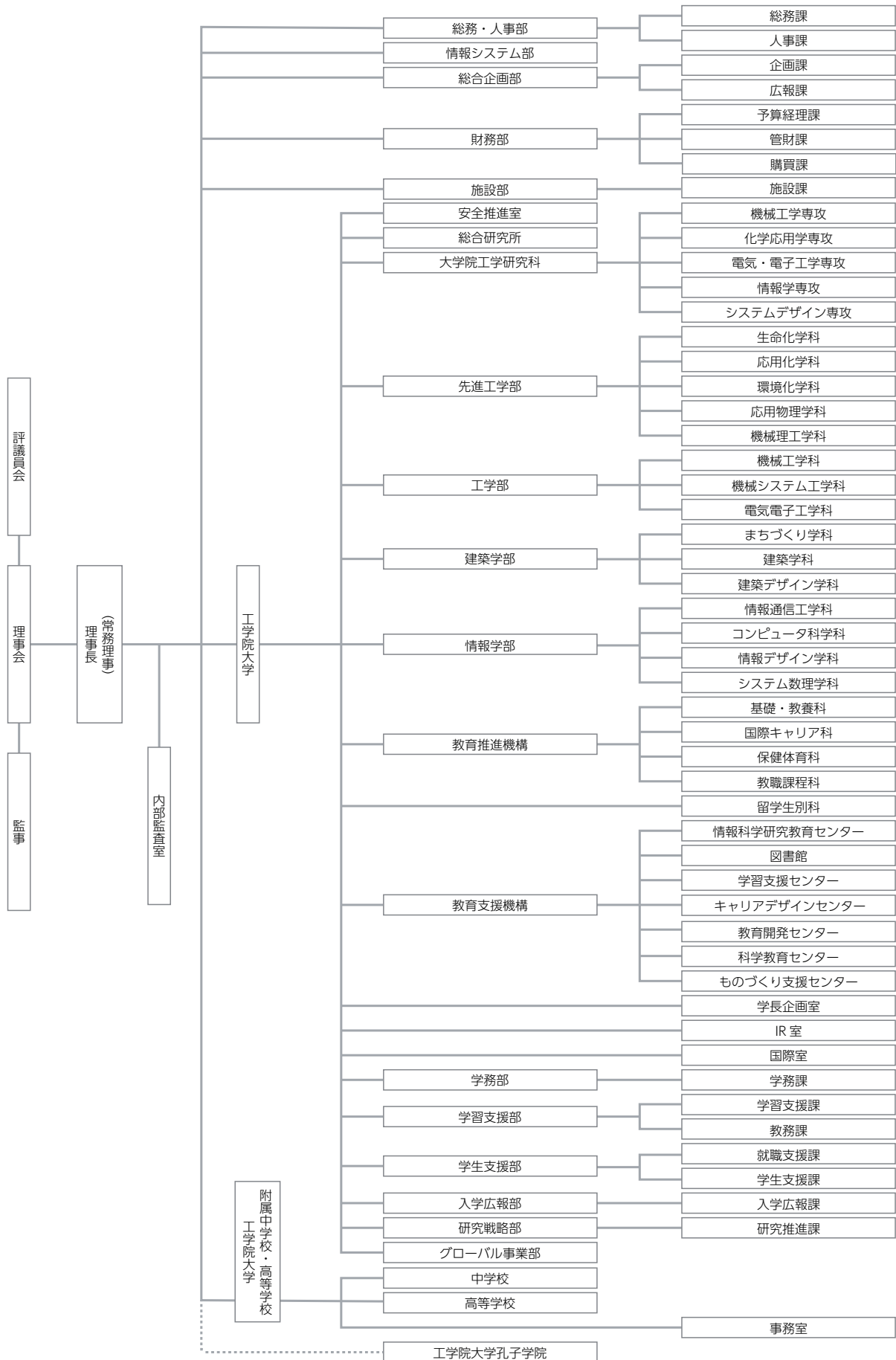
※大学教員:教授、准教授、講師、助教、特別専任、特任、学習支援センター、実習指導員

※中高教員:専任教員(教諭)、嘱託専任講師

※職員:専任職員、嘱託職員(学生職員は含めない)

# 組織図

(2020年3月31日現在)



※募集停止した学部・学科は省略しています。

## 理事・監事

(2020年3月31日現在)

理事長	後藤 治	
常務理事	玉川 雅之	
理事	望月 肇	
理事	三重野 浩	
理事	佐藤 光史	大学学長
理事	鷹野 一朗	大学副学長
理事	平方 邦行	附属中学校・高等学校校長
理事	島崎 勉	非常勤理事
理事	田中 英生	非常勤理事
監事	久慈 英樹	
監事	松本 香	

■理事定数：6人以上9人以内  
■監事定数：2人

■理事現数：9人  
■監事現数：2人

## 評議員

次に掲げる定数32人の評議員をもって評議員会を組織している。ただし、(4)に掲げる者が(4)の役職を兼務するときは、評議員の定数は32人から兼務数を減じた数とする。

(1)専任の教員、職員のうちから	10人
(2)満25歳以上で法人人の設置する学校及びその前身である学校の卒業者のうちから	10人
(3)有識者のうちから	10人
(4)大学後援会、中学・高等学校PTAの各会長	2人

■評議員現数：31人（2020年3月31日現在）

## 校地の所在地 キャンパスと施設

### ■キャンパス紹介

#### 新宿キャンパス

6,414㎡

〒163-8677  
東京都新宿区西新宿一丁目24番2号

(収益事業)エステック株式会社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号



#### 八王子キャンパス

235,991㎡

〒192-0015  
東京都八王子市中野町2665番地1  
(犬目キャンパス)  
〒193-0802  
東京都八王子市犬目町139番地



#### 附属中学校・高等学校

23,209㎡

〒192-8622  
東京都八王子市中野町2647番地2



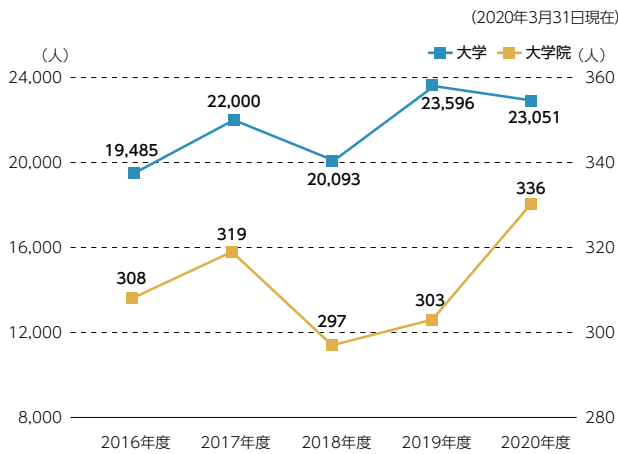
### ■その他施設

#### 富士吉田セミナーハウス

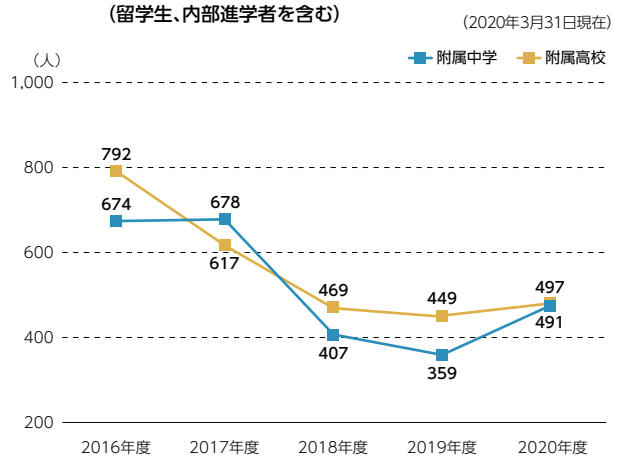
〒403-0006  
山梨県富士吉田市新屋1311-1

## 志願者数 (推薦を含む)

### 大学・大学院

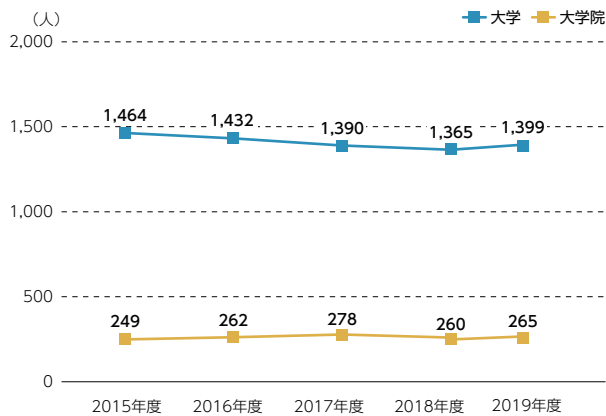


### 附属中学校・高等学校

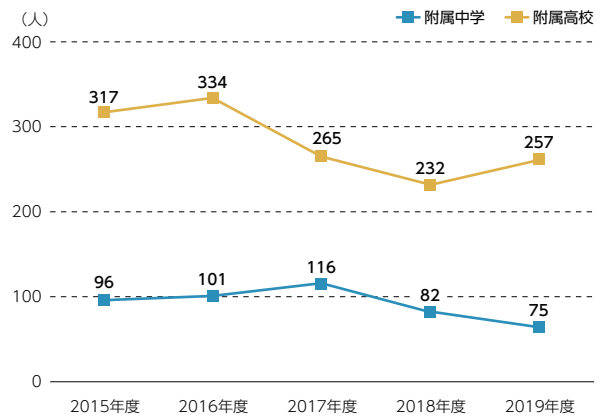


## 入学者数 (編入学者を除く)

### 大学・大学院



### 附属中学校・高等学校



## 国際交流の状況

### 大学・大学院

(単位:人)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ハイブリッド留学	81	86	105	122	128
キャンパス・アテンディング・プログラム	26	42	29	41	42
留学生の受入	39	45	48	50	59

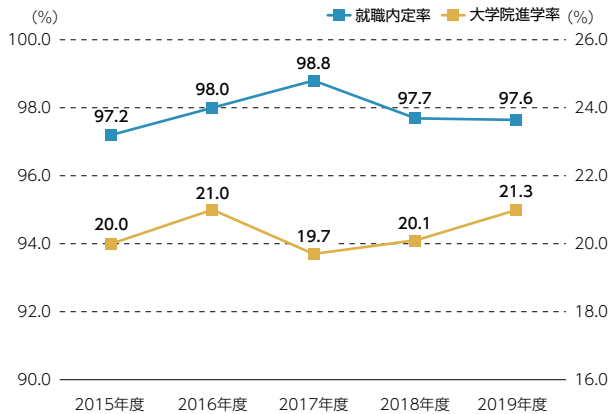
### 附属中学校・高等学校

(単位:人)

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
海外研修プログラム	中学	103	107	112	84	103
	高校	34	67	32	42	234
合計		137	174	144	126	337
留学生の受入	中学					
	高校	6	6	4	6	15
帰国生の受入	中学	15	11	6	11	3
	高校	3	5	8	4	7
合計		24	22	18	21	25

## 卒業後の進路

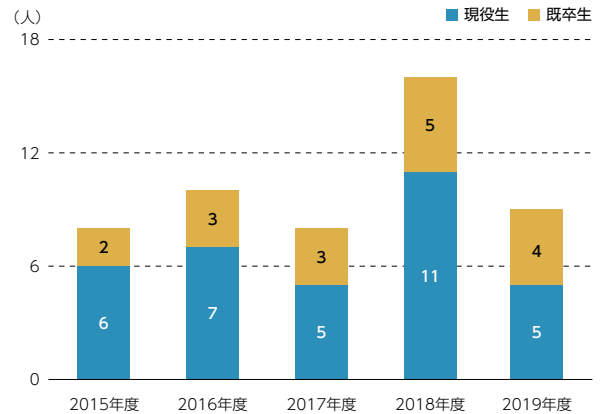
### ■大学・大学院



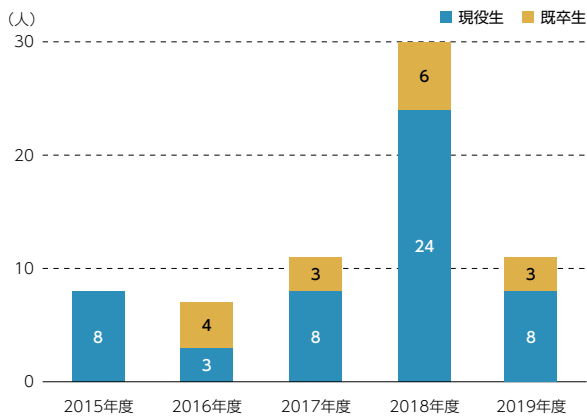
※就職内定率=内定者数/就職希望者数(第2部を除く)  
 ※大学院進学率=大学院進学人数/学部卒業者数(3月卒業者、第2部を除く)

### ■附属中学校・高等学校

#### <国立大学合格者数>

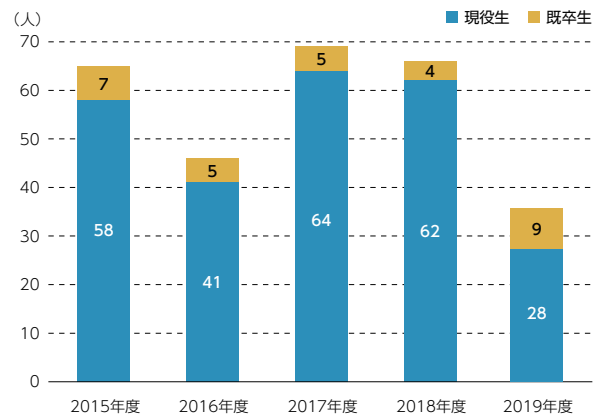


#### <難関私立大学\*合格者数>



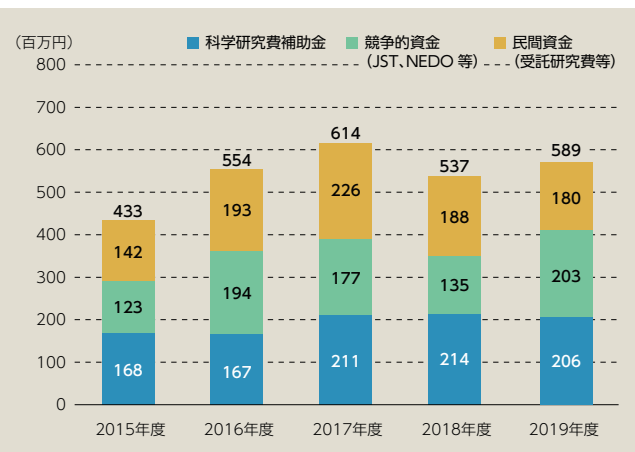
\*早稲田、慶應義塾、上智、東京理科、ICU

#### <GMARCH\*\*合格者数>



\*\*学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政

## 外部資金獲得状況(決算額)



※百万円未満四捨五入



学校法人 **工学院大学**

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1丁目24番2号

電話 03(3342)1211(代表)

URL <https://www.kogakuin.ac.jp/>